

### 勝山御殿の設計（縄張り）

勝山御殿の縄張りは、南側の最前面に大手口をもつ「三の丸」、その背後に弧状に配列する城壁に囲まれた「二の丸」、その背後北側最後尾に「本丸表」と「本丸奥」が配置された構造であることが発掘調査により明らかになりました。この配置は、古絵図・古地図に合致し、発掘調査の成果を裏付けるものとなりました。



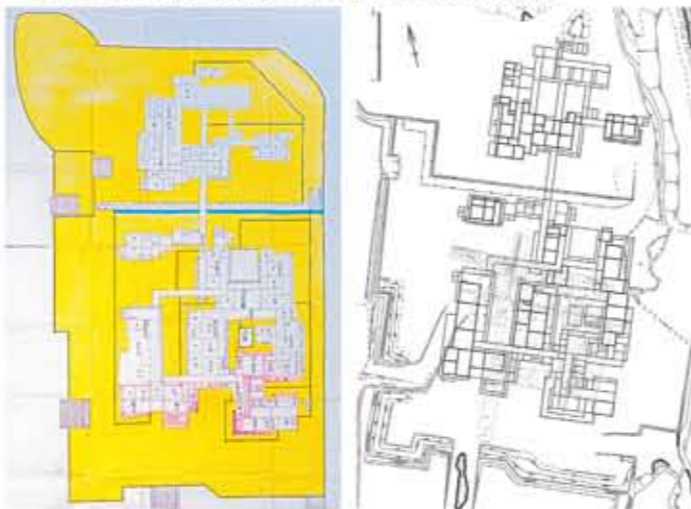
発掘調査による勝山御殿縄張り推定図（左が南）



左は明治30年測量勝山周辺地図、右は長府藩勝山御殿周辺地図部分（京都大学附属図書館蔵）

### 勝山御殿における建築（作事）

勝山御殿の本丸は南北に上下二段に区画され、それぞれ平屋の殿舎が建てられていたことが史料により把握されていました。南側の本丸表には政務を執り行う公的な空間として、また藩主の居住する施設として使用されていました。北側の本丸奥は、藩主夫人をはじめ家族が住まう居住空間として使用されていました。2つの殿舎は渡り廊下により繋がっていたようです。本丸御殿建物は、発掘調査により検出した遺構によりその位置を概ね確認することができました。



本丸の殿舎配置図 \*左図は勝山御殿本丸地図（住吉神社所蔵）

### 勝山御殿における土木工事（普請）

勝山御殿の石垣は、広島県西部の山県地方で発展した「山県積み」石積み技法が用いられ、勝山御殿の特徴の一つとして挙げられます。特に、本丸正面付近は巨石を上方に用いるなど山県積みの特徴を見せますが、あまり人目に付かない本丸西側や三の丸西側などは比較的小さな石材を用いた落とし積み技法を採用しており、効率性を優先しているようです。勝山御殿の特徴的な石積みは、近隣集落に今でも残っており、勝山御殿を築城する際に築かれたものと推測されます。



本丸表南正面の石垣 本丸表南西隅角部の石垣



本丸奥西側の石垣 差葉団地にある石積み

### おわりに

現在、勝山御殿跡は発掘調査の成果を採りいれ「勝山地区公園」として整備されています。今後も引き続き、勝山御殿の史跡を皆さんの協力を得ながら将来にわたり保存していきたいものです。



住所：下関市大字田倉（差葉団地奥）、駐車場・トイレあり  
 その他、詳細は、下関市教育委員会 教育部 文化財保護課  
 （電話：083-252-3867）までお尋ねください。

\*表紙写真  
 上段より、本丸の空中写真（南西上空から）、2018年11月開催の仮装行列イベント、公園整備後の勝山御殿（設置看板）、「ミツガシワ」（本丸心字池）

# 勝山御殿跡



幕末の騒乱の中、築城された「日本最終期の近世城郭」  
 ～国指定史跡 勝山御殿跡～  
**現地案内ガイドブック**  
 平成31年3月改訂版  
 下関市教育委員会教育部 文化財保護課

### 勝山御殿における建築（作事）

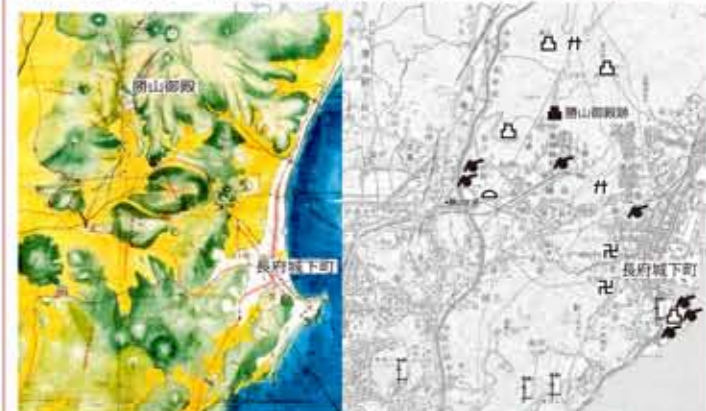
勝山御殿の築城は、幕末の騒乱の中、長州藩における攘夷行為に際する外国艦船の攻撃に対する防衛構想に伴い長府藩により築城されました。1863年(文久三年)6月28日に着工され、5ヶ月後の11月21日に落成と極めて短期間で築城されました。翌1864年(元治元年)2月1日に長府藩主毛利元周が入城しました。

年号(年)	西暦(年)	月日	長州藩内の出来事	日本国内の出来事
嘉永六	1853	6/3		ペリー来航、開国要求
文久二	1862	7/6	藩議により攘夷の方針転換	
文久三	1863	5/2	長府藩邸の移転を萩本藩に譲す	
		5/11	攘夷戦開始	
		～6/5	～第5次攘夷戦	
		6/8	奇兵隊結成	
		6/28	勝山御殿築城開始	
		7/2		薩英戦争
元治元年	1864	8/18		朝廷政変、攘夷派一掃
		11/21	勝山御殿落成	
		2/1	長府藩主、勝山御殿入城	
		5/7	御殿の前庭として林根十景構築	
		7/19		禁門の変
慶応元	1865	7/24		第1次長州征伐
		8/5	第6次攘夷戦(下関戦争)	
		4/14		第2次長州征伐
慶応二	1866	6/7		四城戦争
		1/21	薩長同盟	
慶応三	1867	10/15		大政奉還
		1/3		戊辰戦争開始
慶応四	1868	6/4	勝山御殿への移転許可を得る	
		6/17		版籍奉還
明治二	1869	10/3	勝山御殿に藩庁を移し「施政局」、後「豊浦藩議事館」	
		10/28	藩主、勝山から長府へ居を移す	
明治三	1870	7/14	豊浦藩から豊浦県に改称	版籍置戻
		11/15	豊浦県を山口県に合併、御殿役割終える	
明治六	1873		この頃、勝山御殿の建物解体	

勝山御殿築城時の主な出来事

### 勝山御殿のあるところ

勝山御殿は、それまで居館があった海岸近くから、西へ山ひとつ隔てた勝山の奥地に築られました。周囲三方を山地に囲まれた深い谷筋にあります。城地選地にあたっては、勝山御殿を中心とし、周囲に砲台や関門、土塁などを設け防衛ラインとし、攘夷行為に対する外国艦船の反撃に備えた防衛態勢を整えていました。



△：中近世城郭  
 ㊦：陣屋  
 ㊦：砲台場  
 ㊦：関連寺院  
 ㊦：関門  
 △：土塁

勝山御殿周辺の様相  
 \*左上図は長府藩勝山城周辺地図（京都大学附属図書館蔵）